

# 諦めない光星 劣勢打破

第96回 センバツ 高校野球

## 延長11回 萩原勝ち越し



【八学光星 関東第一】延長11回表、八学光星1死二、三塁、萩原の右前適時打で3-2と勝ち越しに成功

粘って粘って勝利をたぐり寄せた。第96回選抜高校野球大会（センバツ）の開幕試合に臨んだ八戸学院光星は、終盤の劣勢をはね返して関東第一（東京）を撃破。タイブレークの延長十一回に甲子園初打席で勝ち越し打を放った萩原涼太（3年）は「打席に立ちたくてうずうずしていた。一打で決められて、緊張が一気に解けた」と笑顔がはじけた。

【本記一面】  
（本田海輝）

六回までは敵発3安打に抑え込まれ、得点圏に走者を置いたのは1度のみ。先制を許す苦しい展開だったが、「いつも通りやればチャンスは巡ってくる。最後の最後まで諦めない」(砂子田陽士主将・3年)と声をかけ合い続けた。その言葉通り、1点を追つ七回、代打小等原由斗（3年）11八戸市出身が外角の変化球を捉え同点に。再びリードを許した直後の九回にも三上祥

司（3年）青森市出身の右犠飛で食らいついた。迎えた延長十一回。1死二、三塁の好機に、新チームの公式戦で1打席のみの出場にとどまっていた萩原が左打席へ。この日は九回の守備から途中出場し、初打席だったが「ミート力を上げるために、冬は1日100本振り込んだ。手応えがあった」。一強気に「え」との仲井宗基監督のハッパにも応え、狙ったフォーク

を右前に運んだ。一挙3得点につながる。価値ある一打となった。昨年秋の東北大会決勝は、ライバル青森山田に無安打無得点で敗退。「自分を

たちは例年に比べてバッテイングが良くない」(砂子田主将)と、冬場は筋力アップやスイングスピードの強化に努めた。投手に助けられることが多かった打撃陣が一冬で成長。長打は出ずとも小刻みにつなぎ、チームを救った。激闘を制し「今年の八戸は雪が多く、12月から3月

までグラウンドでの練習が一切できなかった。厳しい環境の中でしっかり練習をして力をつけてくれた。その成果である粘り強さが出てきた」と目を細めた仲井監督。砂子田主将は「粘って粘って、つないでつないで、チーム全員一丸となって取れた勝利」とナインの思いを代弁した。